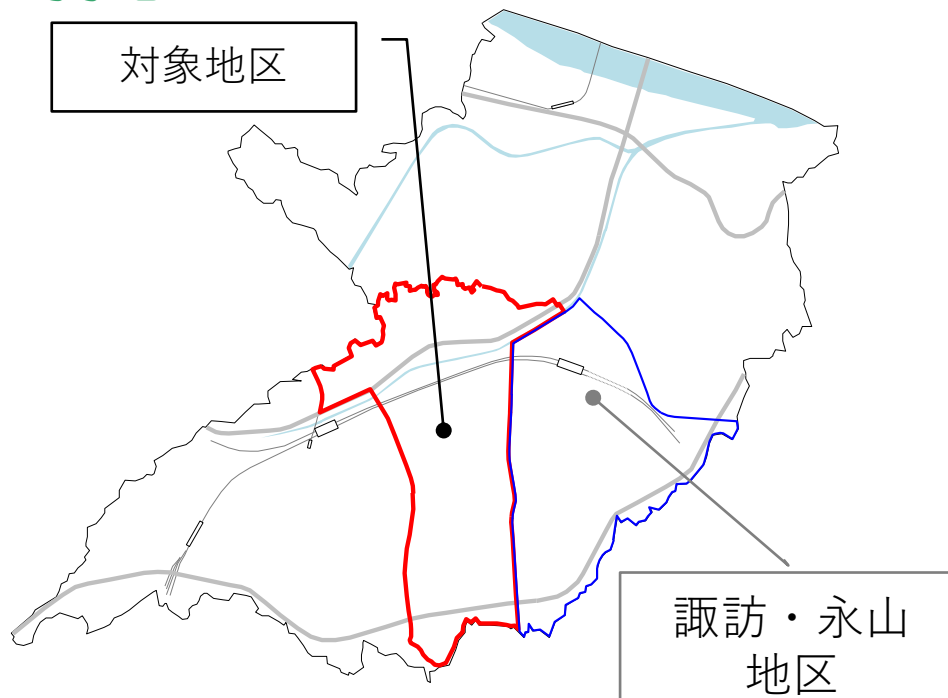


Ⅱ．愛宕・貝取・豊ヶ丘地区 等のまちづくり計画検討

多摩市ニュータウン再生方針及び令和元年度に提言を受けた全体計画を踏まえ、諏訪・永山まちづくり計画に続く、次の地区別まちづくり計画策定に向けた検討を行う。

对象地区



豊名商店街

- コンビニ
- 飲食店
- 旅行代理
- 美容室
- 医療機関(クリニック・歯科)
- 薬局・調剤薬局
- 郵便局、支所

愛宕第二商店街

- 百貨店
- 旅館(宿泊)
- 不動産会社(賃貸用)
- 美容院、ブティック
- 電気通信所、通称

月形北センター周辺

- スーパー
- 飲食店
- 衣料品店
- 美容院
- 医療機関(内科、眼科)
- リフォームショップ
- 理容室

月ヶ丘地区西側一帯

- 公園
- 山園地
- 住宅地
- 雑木林
- 老人福祉施設
- コミュニティセンター
- 公民館

豊ヶ丘・貝取各商店街

- コンビニ
- 飲食店
- 衣料品店
- 薬局
- 美容室
- 医療機関(内科、眼科・整形外科)
- サイクロン
- 郵便局、支所

貝取コミュニティセンター

- 児童館(全和2歳未満まで)

地図の凡例

[赤線]	地区界
[茶色]	鉄道駅舎エリア
[青線]	都市計画道路
[黒点]	その他の道路
[紫線]	歩行者専用道路
[黄線]	旧市内通り
[黒線]	鉄道
[緑色]	都市計画法区分
[黄色]	その他公園
[青色]	緑有用地
[水色]	水面
[灰色]	学校
[茶色]	地区センター
[ピンク]	広域センター
[薄緑]	市庁所在地
[青線]	路線バス
[紫線]	コミュニティバス
[丸印]	駅前
[四角印]	コミュニティセンター
[電球印]	住居
[茶色]	分譲住宅
[黄色]	賃貸住宅(100)
[オレンジ]	賃貸住宅(商業)
[赤色]	賃貸住宅(分譲)
[緑色]	成金地(1〜2階)
[水色]	中層棟(4〜8階)
[紫色]	高層棟(9階以上)

0 50 100 200 400m

1. 検討の概要・目的

■ 検討の方向性

上位計画を踏まえ、現況把握・課題の抽出を行い、まちづくりの方向性、方向性に基づく将来都市構造、その実現のための具体的な取組からなるリーディングプロジェクトの検討を行う。

■ 検討スケジュール（案）

- ・ 計画策定は令和5年度を予定し、3ヶ年検討とする。

今年度（R2年度）

【現況整理】

策定対象地域の現況分析、次年度以降の検討テーマ

R3年度

【まちづくり計画 （素案）の検討】

将来都市構造・リーディングプロジェクト等の検討深度化・実現策検討

R4年度

【まちづくり計画 のとりまとめ】

検討のとりまとめと地域との意見交換等

R5年度

計画
策定

第3ターム（R2年度～R3年度）

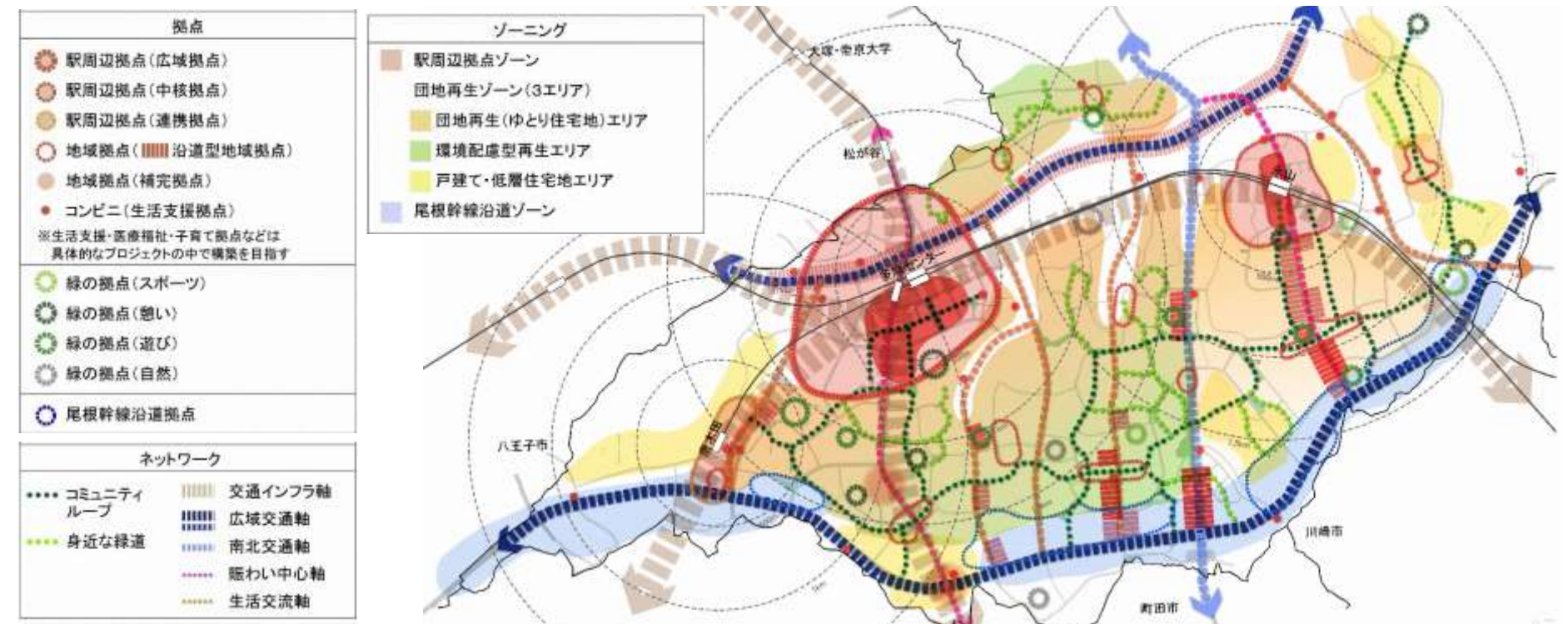
第4ターム（R4年度～R5年度）

1.検討の概要・目的 【参考】

多摩ニュータウン再生の道しるべ 全体計画～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ

- ・令和元年度再生推進会議において、市へ提言
- ・「ゾーニング+拠点+ネットワーク」の視点で2040年代の将来都市構造を示す。

■全体計画 多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ



※想定する補完拠点及び関連する交通インフラ軸ルートについては、2016（平成28）年4月の国の交通政策審議会の答申を踏まえ多摩市が想定したものであり、確定しているものではありません。

出典：多摩ニュータウン再生の道しるべ 全体計画～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ（令和元年2月）

1. 検討の概要・目的 【参考】

多摩ニュータウン リ・デザイン 諏訪・永山まちづくり計画

- 全体計画と同様に「ゾーニング・拠点・ネットワーク」の考え方を基に、それぞれについて方向性を示し、第1次入居地区の諏訪・永山地区をモデルに近隣住区論を踏まえた2040年代の都市構造を検討。
- 実現に向けた取り組みとしてリーディングプロジェクトを位置づけ。

■ 諏訪・永山地区における再生の目標

【多摩ニュータウン再生をリードするフロントエリア】

駅と医療・子育て・福祉拠点を連携させたコンパクト型エリア再編を契機に、「健康都市」を創り・発信するニュータウンのモデル地区「諏訪・永山エリア」

「近隣住区理論」を踏まえて形成された諏訪・永山地区の良好な都市基盤や環境を活かしながら、「多様な拠点のネットワークによるコンパクトなまち」に向けて、



により、都市構造の転換を図り、持続可能なまちづくりを行います。

※拠点の形成やネットワークの構築などの必要に応じて、新たな都市計画フレーム（用途地域、容積率、高さ、密度等）や地区計画の導入を検討します。

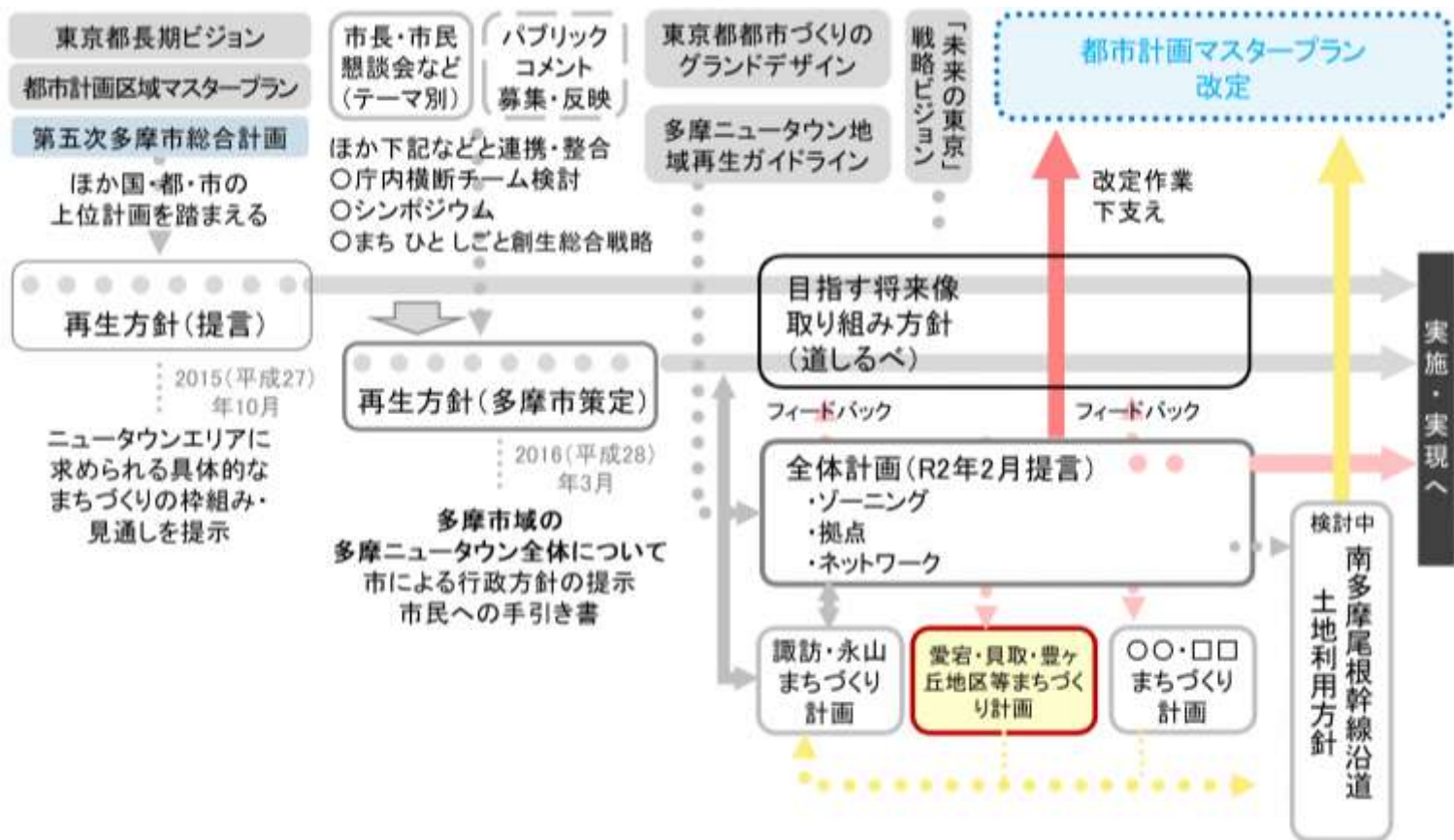


に示すゾーン以外の戸建て・低層住宅地、サービスインダストリー地区、区画整理事業により整備された地区等。今後も現在の土地利用、高さ・密度を維持するものとします。

2. 上位計画

▶ 上位計画では、良好な住環境を活かし、多様な世代が住み続けられる住まい・住環境に向けて、団地再生・少子高齢化対策・近隣センター再生・公共交通再編・住替えできる循環構造の検討などが求められている。

■ 愛宕・貝取・豊ヶ丘地区等まちづくり計画の位置づけ



出典：多摩ニュータウン再生の道しるべ 全体計画～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ（令和元年2月）

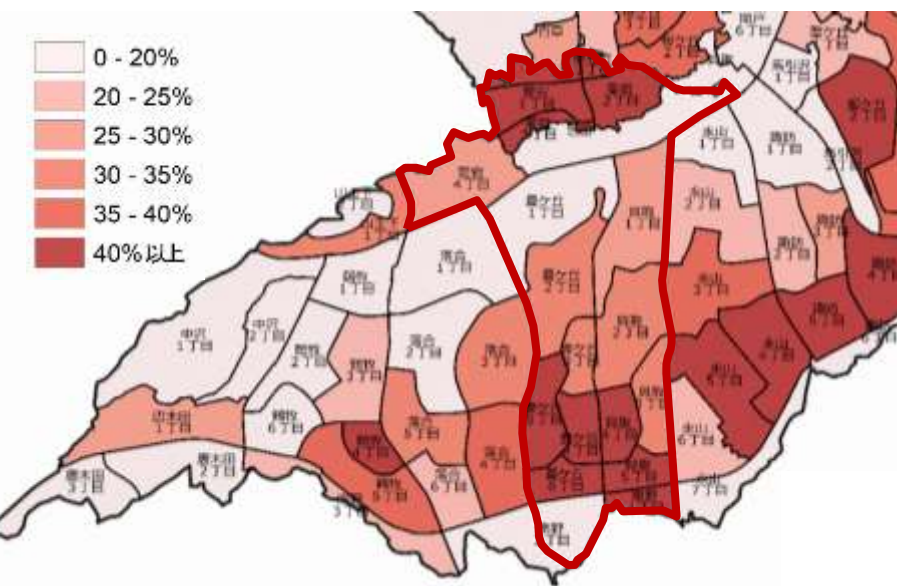
3. 高齢化率・年少人口率



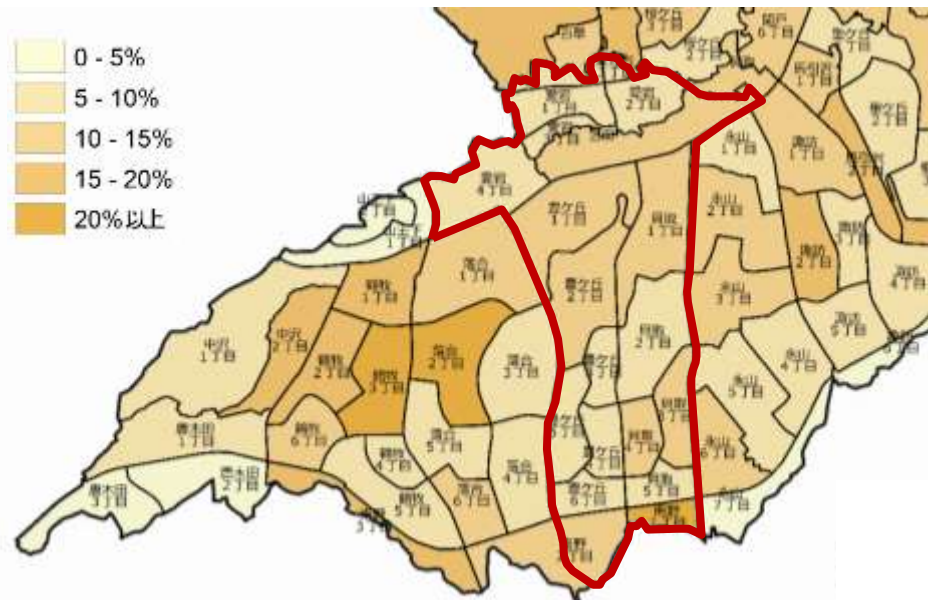
公的賃貸・分譲団地が集積する貝取・豊ヶ丘地区南側と愛宕地区は
高齢化率は40%以上に進行

- ・地区内の人口は28,235人、世帯数は14,149人。
- ・公的賃貸団地が複数立地する愛宕地区と貝取・豊ヶ丘地区の南側では高齢化率が40%以上と進行。また、その他の地区においても高齢化が進行している。
- ・一方、区画整理エリアである乞田と豊ヶ丘1丁目は高齢化率が低い。

■高齢化率(H27)



■年少人口率(H27)



4.ゾーニング

①用途地域・地区計画

- ▶ 愛宕・貝取・豊ヶ丘等地区内の新住区域の多くは、第一種中高層住居専用地域（60/200）に指定されており、近隣センターは第二種中高層住居専用地域（60/200）に指定
- ▶ 区画整理区域は、主に第二種中高層住居専用地域（60/200）、多摩ニュータウン通りは準住居地域（60/200）と第一種住居地域（60/200）にそれぞれ指定
- ▶ また住宅用途を主にした地区計画が8ヶ所立地

用途地域種別	建築率 (%)	容積率 (%)	高さ制限
第一種住居地域	30	40	第一種住居地域 (高さ15m)
	40	50	
	40	60	
第一種中高層住居専用地域	50	100	25m以下建築地帯
	60	200	
	80	200	
第二種中高層住居専用地域	50	100	25m以下建築地帯
	60	150	
	80	150	
第一種住居地域	50	200	25m以下建築地帯
	60	200	
	80	200	
第二種住居地域	50	200	25m以下建築地帯
	60	200	
	80	200	
準住居地域	50	100	25m以下建築地帯
	60	200	
	80	200	
近隣商業地域	50	300	25m以下建築地帯
	60	300	
	80	300	
商業地域	50	300	指定なし
	60	400	
	80	400	
第二種商業地域	50	500	指定なし
	60	600	
	80	600	
第三種商業地域	50	300	25m以下建築地帯
	60	300	
	80	300	



4. ゾーニング

②現在の土地利用

- ▶ 地区は、多摩センター駅と永山駅の間に位置しており、愛宕地区と貝取・豊ヶ丘地区の間には区画整理エリアが広がる
- ▶ 地区内の土地利用は住宅利用が主であり、愛宕地区は都営住宅が多く、貝取・豊ヶ丘地区は分譲住宅が中心であるが、尾根幹線沿道沿いにはUR賃貸が面的に立地している
- ▶ 多摩ニュータウン通り沿いには、ロードサイド型の商業施設等が立地



4.ゾーニング

③住宅立地

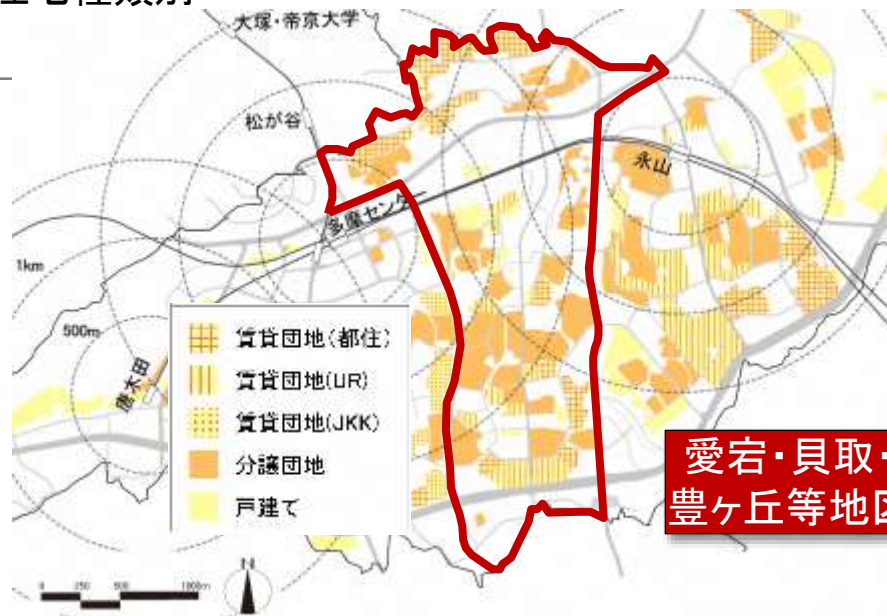
昭和40～50年代に入居が行われた分譲住宅の立地が多い地区

地区内には、昭和56年以前に建設された旧耐震マンションが複数立地し、さらに居住者の高齢化も進行していることから、分譲団地マンションの再生が喫緊の課題。

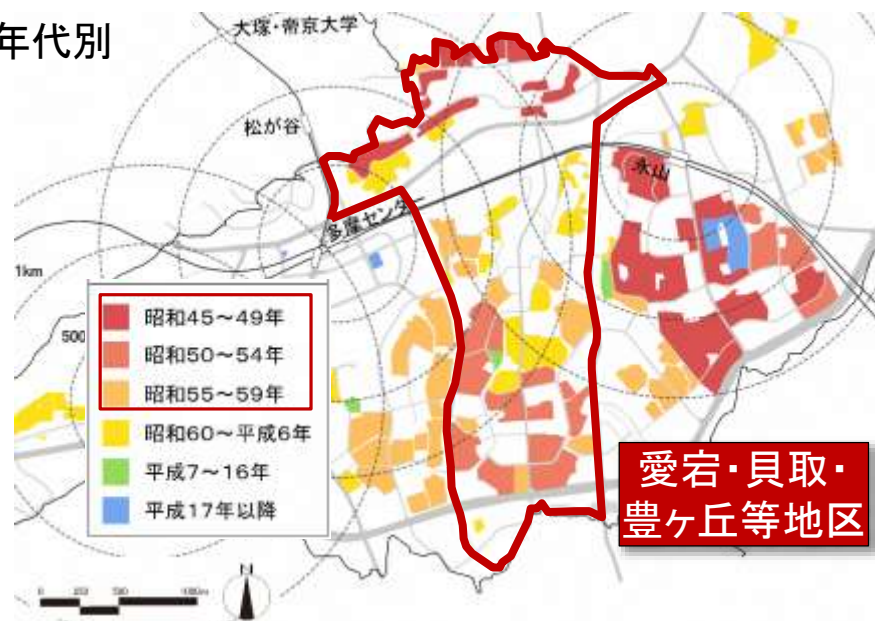
徒歩圏1km以上の住宅立地が多い

愛宕地区においては都営住宅の建替え事業が進む

- ・貝取・豊ヶ丘地区は、昭和50年代より入居開始され、分譲や公社、UR賃貸など多様な主体により住宅供給が行われている。また他の地域よりも分譲住宅の立地が多い。
- ・愛宕地区は、諏訪・永山地区同様昭和40年代に入居が開始された地域であり、地区内には公社賃貸住宅・分譲住宅のほか都営住宅が多く立地。現在一部では都営住宅の建替えが進行。



■年代別



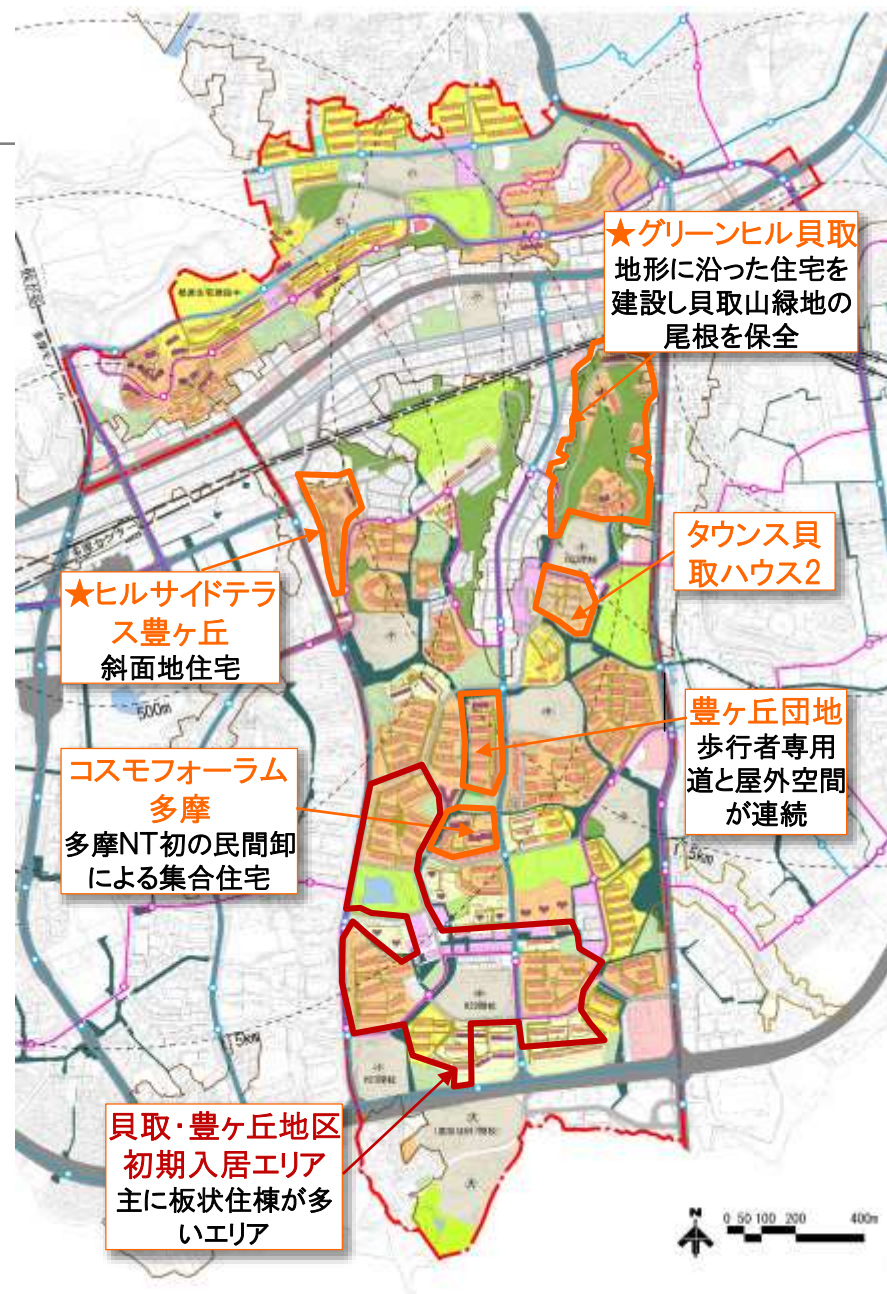
4. ゾーニング

④ 多様な住宅ストック

丘陵地を活かした団地計画や住宅ストックに多様性がある分譲住宅が複数立地

第2・3次入居地区は、第1次入居地区と比較し、賃貸・分譲ともに住戸規模の拡大・LDKなど住戸プラン上の発展がみられる

- 貝取・豊ヶ丘地区に立地する住宅については、初期に入居があった住戸では専有面積・間取りが後期に建設されたものと比較して、相対的に小さいものもあるが、北側の昭和60年以降に供給された住宅は、戸当たり100㎡に近い住宅が主流となり、間取りも多様化している。



5. 拠点

①施設立地 (商業・医療福祉・子育て等)

▶ 主要施設はNT通り、近隣センターに集中的に立地

	区画整理エリア	新住エリア
生活利便施設 (商業系)	17ヶ所	35ヶ所
公共公益施設	2ヶ所	3ヶ所
医療保険施設	14ヶ所	8ヶ所
介護関連施設	14ヶ所	6ヶ所
子育て関連施設	2ヶ所	11ヶ所



5. 拠点

②近隣センター・サブセンター



一部空き店舗化し、センター機能は低下しているが、豊ヶ丘・貝取名店街では空き店舗のコミュニティ施設への転換がみられる
区画整理エリアとの境にある貝取北センターは車アクセスがしやすいため賑わいがある

名称		主な機能・概要
近隣センター	愛宕商店街（賃）	空き店舗化が進行
	愛宕第二商店街（賃）	
	貝取北センター商店街（賃・分）	サブセンターの位置づけであるが、区画整理エリアに面しており、車アクセスがしやすく空き店舗が少ない
	豊ヶ丘・貝取名店街（賃・分）	道路との高低差により、中心から離れたエリアは一部戸建化され、空き店舗化が進行



5. 拠点

【参考】豊ヶ丘・貝取名店街周辺における地域拠点化の取り組み

J smile 多摩八角堂

地域に関わる自治体・企業が多摩ニュータウンの魅力を再発見して発信する「多摩ニュータウン南側プロジェクト」の拠点として活用



とよよん 「健幸つながるひろば」

地域住民が日常の生活での困りごとや介護・福祉についての相談ができ、また住民同士が交流できるような施設



ネコサポ

「くらしのネコの手サービス」として、地域住民が集まるイベントやセミナーの運営、家事・買い物代行など地域に密着したサポート事業の展開

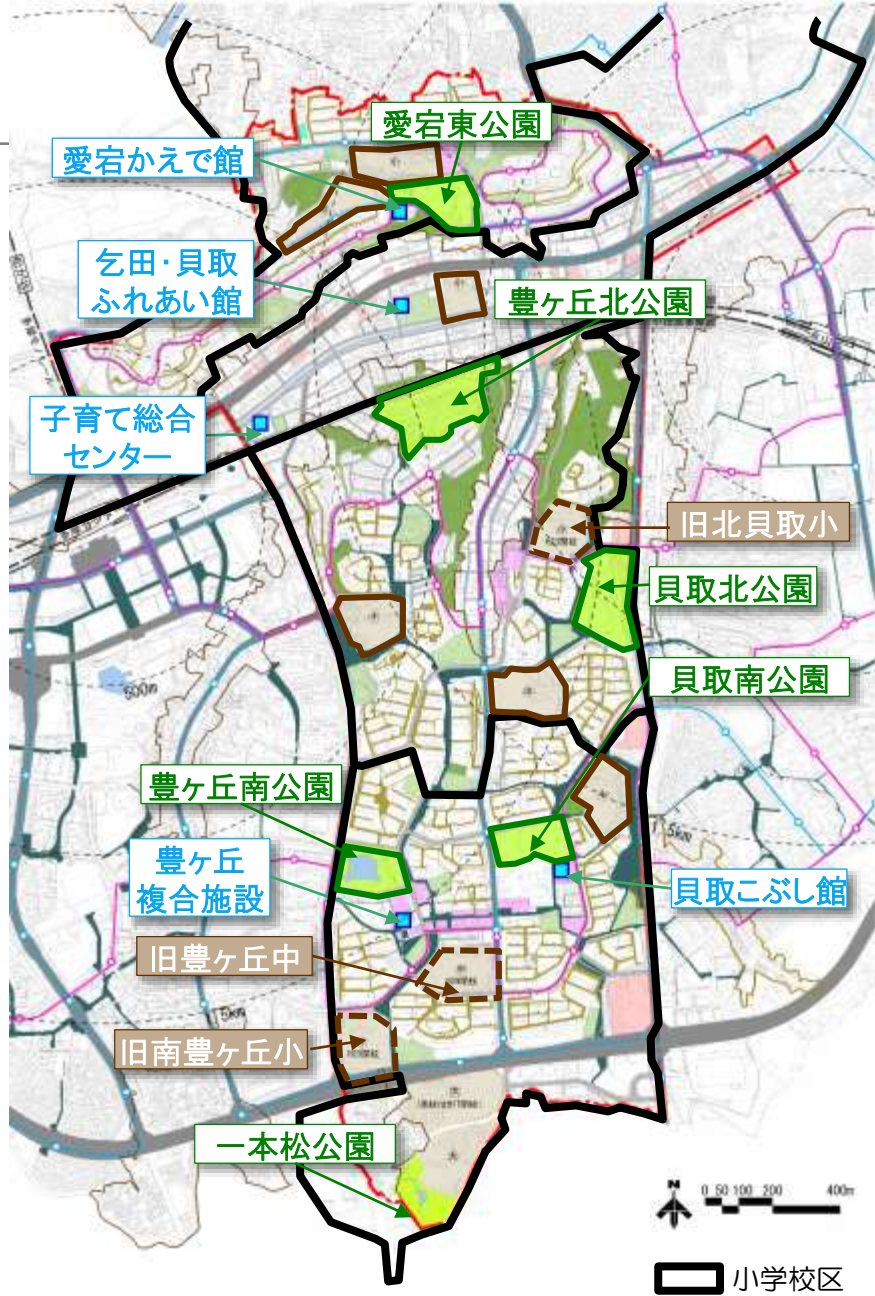


5. 拠点

③公共施設等

- ▶ 地区内には5ヶ所のコミュニティ・教育施設が立地
- ▶ 学校は、統廃合により住区を跨いだ校区へ変化し、学校跡地施設の活用がされている
- ▶ 地区内は公園と遊歩道が連続した豊かな緑や特徴的な地形を活かした景観が魅力

名称		取組み・概要
学校跡地活用	旧北貝取小	体育館、校庭等の市民開放 「未来へと 人も文化も つなげる場」をコンセプトに、（仮称）市民活動・交流センター、（仮称）多摩ふるさと資料館として今後活用を目指し、2022年4月の開館を目指している
	旧豊ヶ丘中	校庭等の市民開放・跡地活用検討
	旧南豊ヶ丘小	スポーツや健康づくりの場 （南豊ヶ丘フィールド）・防災避難所



6. ネットワーク

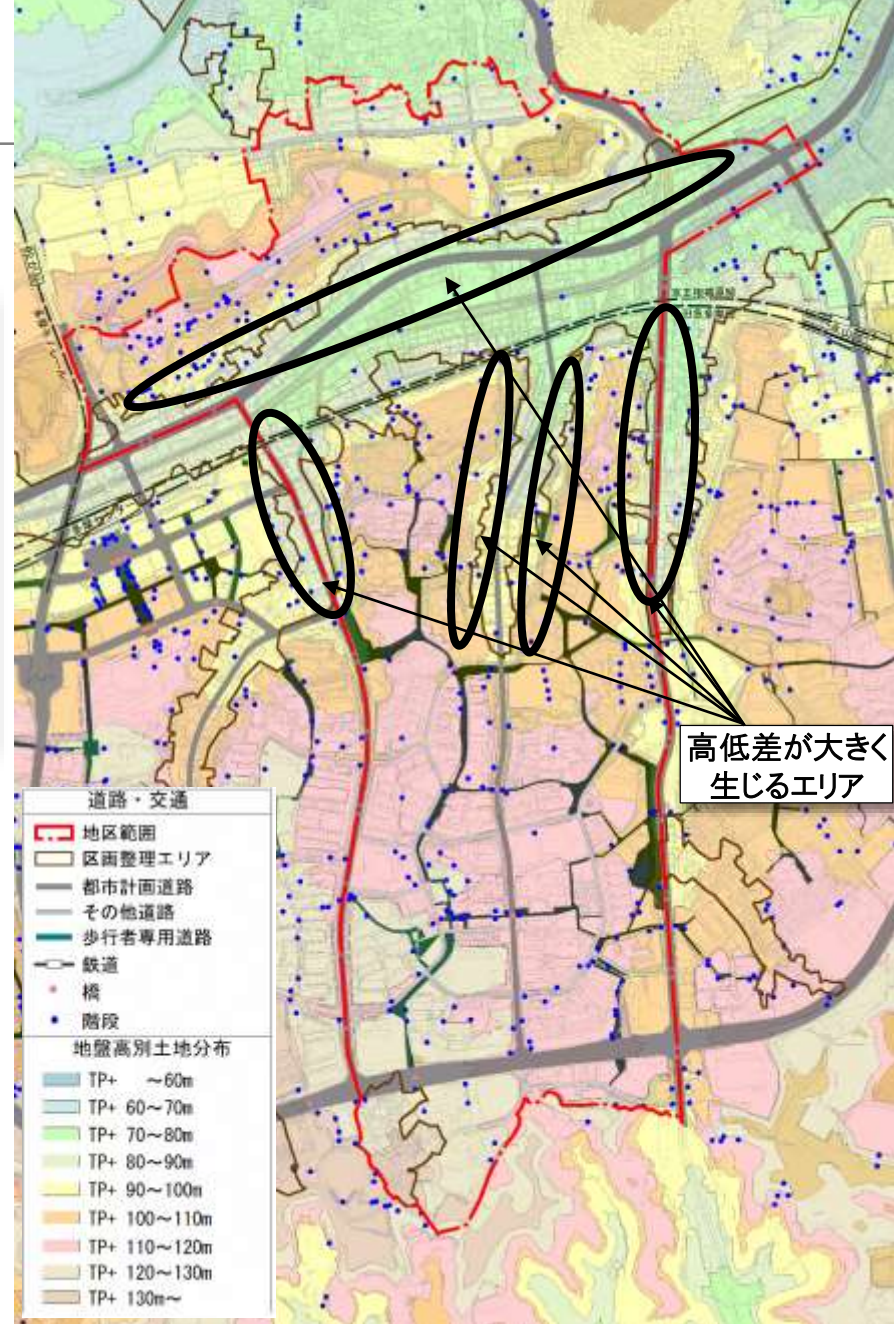
① 地形・道路・遊歩道

▶ 貝取・豊ヶ丘地区は、高台に位置しているが、地区内は緩やかに造成住区内は遊歩道によるネットワークが充実

▶ 愛宕地区は、地区内での高低差や傾斜も大きい

▶ 区画整理エリアとの高低差がある

- 全般的に丘陵地の地形や自然を活かした遊歩道や緑が、豊かな屋外空間、景観を形成。
- 新住区域は緩やかに造成されているが、区画整理区域との間に20m以上の高低差があり、住区外へのネットワークを妨げている。
- 愛宕地区は、地区内での高低差や傾斜も大きく、区画整理エリアとの高低差も大きい。南北の歩行者動線は、階段による動線がメイン。



6.ネットワーク

②バスネットワーク

▶ 既存バスは幹線道路を中心にネットワーク

▶ 愛宕地区は、幹線バス路線と支線のコミュニティバスで、東西にネットワーク

▶ 貝取・豊ヶ丘地区は、幹線バス路線が南北にネットワーク。東西方向は支線のコミュニティバスが補完



■地区内のバス網



出典：多摩市都市計画基礎調査（平成29年）
バスルートは京王バス、多摩市HPより作成

6.ネットワーク

多摩市地域公共交通再編実施計画【参考】

- ▶ 多摩市地域公共交通再編実施計画では、公共交通ネットワーク全体を一体として形づくり、持続させることを目的に、バスを幹線・支線へ再編し、地域密着交通の導入が方針として示されている。
- ▶ 当該計画においても、今後検討していく施策として、団地内の移動手段確保が示され、その解決のために導入を検討する交通モードとしてグリーンスローモビリティ等の導入が挙げられている。



7.まとめ

本地区は駅を含まないエリアに位置しており駅利用の利便性、高低差、旧耐震マンションの立地等の課題がある一方、地形を読み取った実験的な住宅計画や、住戸のバリエーションの豊富さなど多様性のある住宅ストック、地形を活かした特徴的な景観、遊歩道ネットワーク等に特徴のあるエリアである。上記視点と現状整理を踏まえ今後の検討ポイントの整理する。

ゾーニング

- ・駅距離圏や市場性などを勘案しながら、分譲団地マンションについては再生を促すとともに、地区内の良好な住宅ストックを生かすように供給年数や住宅性能の差を踏まえたゾーニングを検討。
- ・駅から距離のある立地特性のライフスタイルや、公共施設や近隣センターの機能による住区のとらえ方を踏まえたゾーニングの工夫も必要。

拠 点

- ・区画整理エリアの沿道型地域拠点である多摩NT通りやサブセンターでは、車アクセスの良さから商業機能の維持は図れている一方、近隣センターの一部はコミュニティ拠点化や空き店舗化していることより商業面での再生を図るためには、沿道型地域拠点化についての検討も必要。
- ・また沿道型地域拠点は高低差の解消に加え、配達等生活支援拠点としての役割についての検討も必要。
- ・地域公共交通再編実施計画と連携した新たな交通拠点の形成も必要。

ネットワーク

- ・団地内外とのネットワークを補完する新たな交通モード（グリーンスローモビリティなど）の検討が必要。
- ・他のエリアや周辺拠点とのネットワークの検討も重要。その際の高低差解消が課題。

8.次年度の検討事項（案）

次年度以降は、地区内の課題を踏まえ、将来都市構造とその方向性の検討を行なうとともに、実現に向けたリーディングプロジェクトの検討を行う。

次年度以降の検討テーマ		
項目	方向性・考え方	リーディングPJ（案）
ゾーニングの考え方	・ 駅との関係性や住宅の性能、公共施設、近隣センター、公共交通の手段といった地域の状況を踏まえたゾーニングの設定 ・ 分譲団地マンションの再生に向けた方策の検討	団地再生PJ など
拠点のつくり方	・ コミュニティ拠点化が進行する近隣センターやサブセンターなど既存の拠点のあり方 ・ 幹線道路を活かした沿道型地域拠点としてのあり方 ・ 空き店舗や廃校等を活用したコミュニティや働く場等新たな拠点形成のあり方	尾根幹線沿道開発PJ 近隣センター再生PJ 団地再生に関わる拠点づくりPJ など
ネットワークのつくり方	・ 各幹線道路、遊歩道の役割や位置づけ ・ コミュニティループの考え方 ・ 新交通技術を活かしたネットワークの強化策	周辺環境整備事業PJ 交通PJ など
その他	・ 住民との意見交換、住環境の調査による地域ニーズの抽出 ・ 人を呼び込み、ニュータウンで循環させていく方策を検討 ・ ターゲットとする暮らし方・生活イメージの検討	

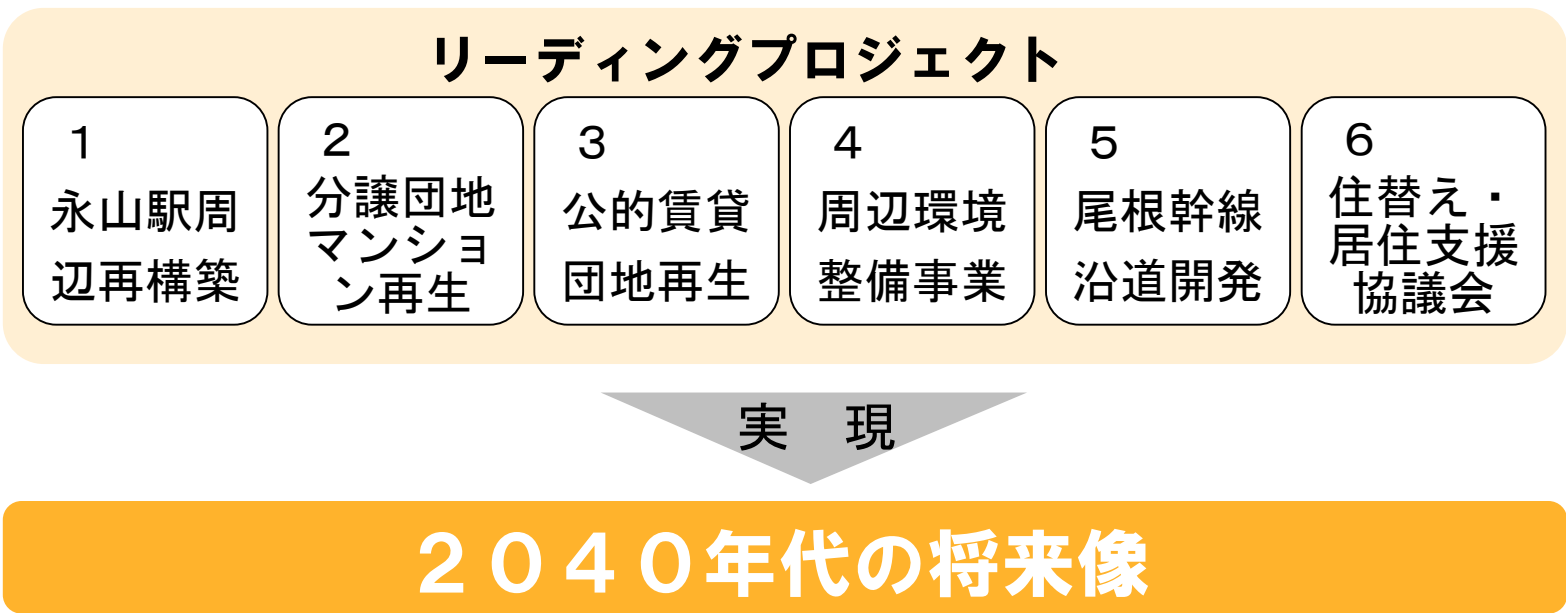
Ⅲ. リーディング プロジェクト等の状況

1.リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは

「多摩ニュータウン リ・デザイン 諏訪・永山まちづくり計画」において、2040年代の将来像の実現に向けた取り組みとして6つのリーディングプロジェクトを示す。

リーディングプロジェクトにおいては、計画の具体化・事業化に向けて関係主体と連携のもと取り組む。



1.リーディングプロジェクト

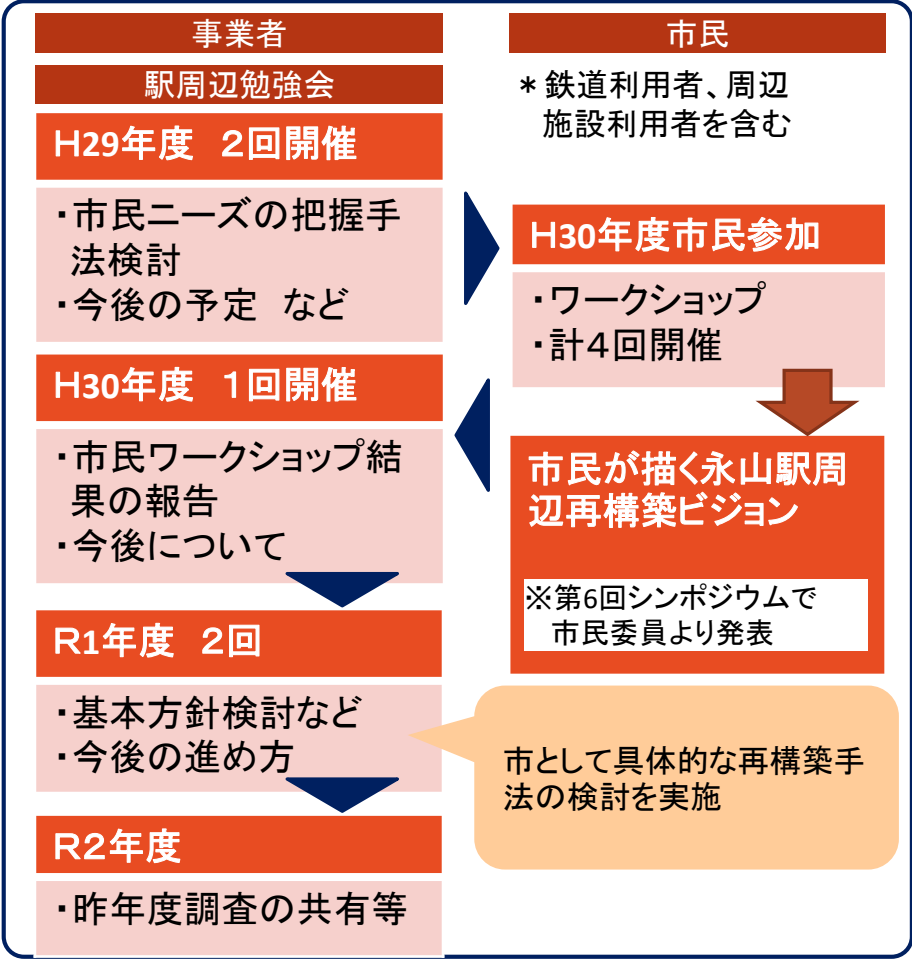
①永山駅周辺再構築

まちの玄関となる駅前顔づくりと周辺の拠点性の向上に向けて、再構築を進める。

■永山駅周辺再構築に向けたポイント

- 1. 駅周辺の複合拠点化に向けた機能導入・駅前空間の再整備・わかりやすい歩行者動線の確保
- 2. 駅周辺をひとつの拠点とするために事業者間での永山駅周辺における再構築ビジョンの共有
- 3. 駅周辺の一体的再構築に向けた土地の効率性・事業性を高める事業手法・都市計画変更の検討

■これまでの動き



1.リーディングプロジェクト

②分譲団地マンション再生

老朽化等の課題に対応し、居住人口や賑わいの創出等を図るため、再生を促進する

- 平成30年度より、東京都マンション再生まちづくり制度を活用して「多摩市マンション再生合意形成支援事業補助金」を創設
- 令和2年度以降、愛宕・貝取・豊ヶ丘地区等の計画策定に向け検討を進め、合意形成支援の対象拡大を目指す

■主な再生の流れ・支援メニュー

段階	主な内容	市等による支援（補助金など）
I 準備段階	①勉強会の設立 ②管理組合として検討段階に進むことへの合意	▶多摩市住宅アドバイザー派遣制度 ▶多摩市マンション建替え・改修アドバイザー利用助成制度
II 検討段階	③管理組合における検討組織の設置、検討段階の開始 ④現状把握 ⑤引き続き修繕をしていくか、大きな改修を行うか、建替えかの総合的な判断 ⑥管理組合として計画段階に進むことへの合意（再生推進決議等）	▶多摩市マンション再生合意形成支援補助 ※諏訪・永山まちづくり計画の策定と併せて制度構築 ※諏訪・永山地区内の旧耐震団地のみ対象 ▶多摩市非木造住宅耐震化促進補助金（耐震診断）
III 計画段階 IV 実施段階	※どのような再生を行うかにより具体的な計画の流れは異なる。以下は大まかな項目。 ⑦計画組織設立、専門家選定等 ⑧計画案等の検討 ⑨集会により決議 ⑩事業の実施	▶多摩市非木造住宅耐震化促進補助金（耐震改修） ▶多摩市優良建築物等整備事業補助金（建替え又はバリアフリー・省エネ改修等） ▶多摩市まちづくり条例に基づく地域まちづくり計画の作成 ▶共同住宅建替誘導型総合設計制度の活用 ▶多摩市大規模団地等建替え事業支援実施制度

1. リーディングプロジェクト

③ 公的賃貸団地再生

- 老朽化の進んだ団地の建替えを進め、バリアフリー化など居住環境を改善
- 建替えによる創出用地の活用により地域の活性化を図る

都営住宅

- 諏訪団地及び和田・東寺方・愛宕団地の建替えに向けて、事業を実施中

- 旧西永山中学校跡地（多摩ニュータウン永山三丁目団地）は一昨年に移転が完了
- 多摩市西永山福祉施設が開設・事業開始
- 中沢一丁目都有地、旧中諏訪小学校グラウンド跡地、旧西愛宕小学校跡地において建設工事实施中



1. リーディングプロジェクト

③公的賃貸団地再生

UR

- 平成30年12月19日に「UR賃貸住宅ストック活用・再生ビジョン」が策定・公表
 - 3つの団地別の類型が示され、このうち管理開始から40年以上が経過した団地を対象とする「ストック再生」には市内ニュータウン区域では4団地が該当
 - 令和2年3月に、UR諏訪団地において団地再生事業に着手。除却跡地を活用して一部建替えが計画されている。
 - 引き続き、多摩市、地域関係者と連携し居住者のご意見等をうかがいながら再生を進めていく予定

JKK

- 子育て・高齢者等の多様な世帯の入居を支援
 - 子育て・高齢者世帯等を対象に優先的に入居申込みを受け付け
 - 親族との近居を希望する世帯を対象に、優先的に住戸を紹介（登録制）
 - 新婚世帯・ひとり親世帯・若年世帯を対象に、一部団地で一定期間の家賃を割引

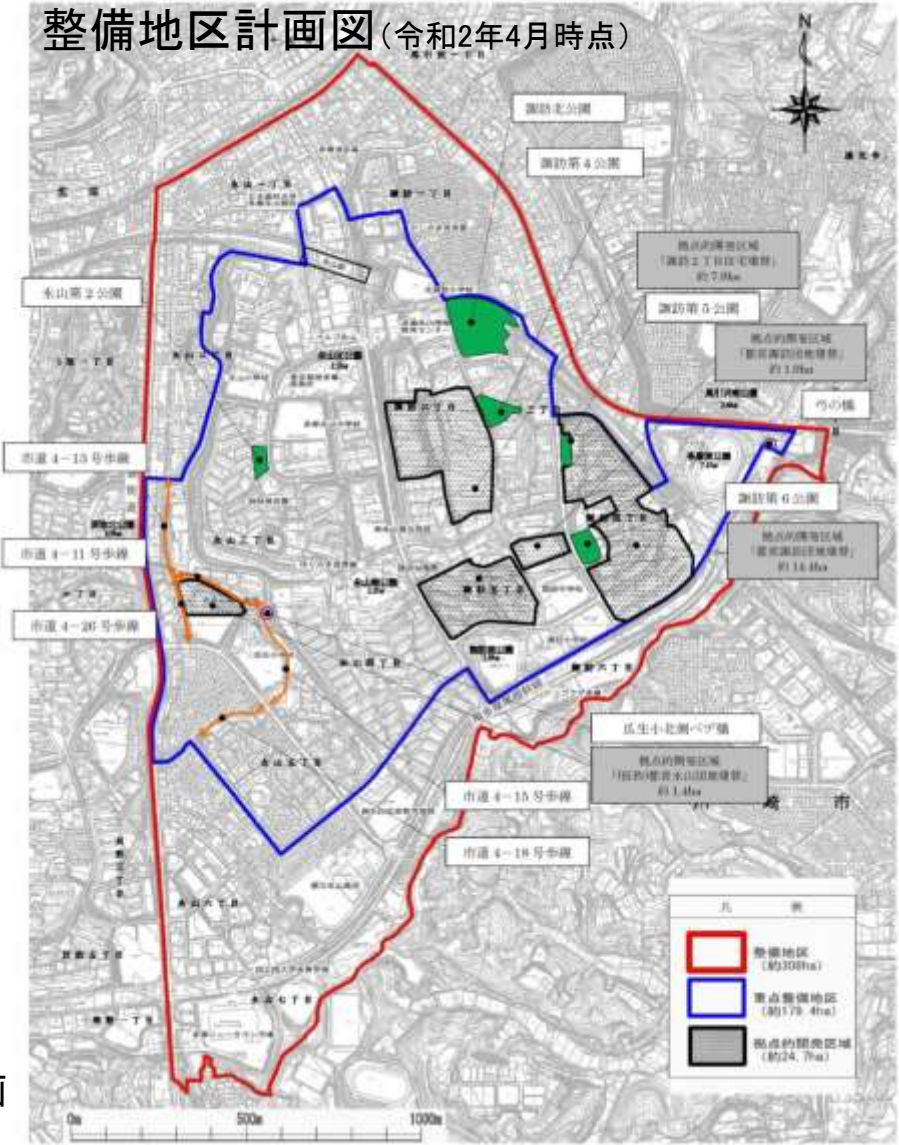
1.リーディングプロジェクト

④周辺環境整備事業

住宅団地の建替え等に合わせ、公共施設や遊歩道等の改修、バリアフリー化を進め、快適で安全・安心な居住環境を創出する

- 都営諏訪団地建替えに合わせ、第2期整備計画を平成30年12月に策定
- 令和2年度は整備に向けた設計等を実施
- 令和2年4月に第2期整備計画の一部を変更。当初想定していた5橋のうち4橋は関連事業で実施予定。(瓜生小北側ペデ橋は設計のみ住宅市街地総合整備事業で実施)

資料: 第2期多摩ニュータウン諏訪・永山地区整備計画
〔住宅市街地総合整備事業〕



1.リーディングプロジェクト

⑤尾根幹線沿道開発

沿道の賑わいと地元雇用を創出する
土地利用転換を誘導

- 唐木田区間は4車線化及び歩道整備が完了。
- 聖ヶ丘5丁目～南野3丁目区間では、東京都において平成31年3月に都市計画変更が決定。
- 稲城市百村～多摩市聖ヶ丘5丁目区間では、令和元年8月に東京都において「都市計画変更素案および特例環境配慮書」の説明会を実施。
令和2年8月に本線位置が選定され、同年9月にオープンハウスを開催。引き続き、都市計画変更手続き及び環境影響評価手続きが進められている。
- 再生方針に示す個別方針「幹線道路沿に賑わいと地元雇用を創出する土地利用転換」の実現に向け、今年度以降の再生推進会議のメインテーマとして検討。

■イメージ



1.リーディングプロジェクト

⑥住替え・居住支援協議会

住宅セーフティネットに関する取り組み及び円滑な住替えの促進を図る

居住支援

- 相談会の実施(相談事業)
- セミナー開催、パンフ作成(普及啓発事業)
- 入居・生活支援の取り組み検討

R2年度より「多摩市居住支援相談窓口」を開設

住替え支援

※コロナ禍の影響で、講座等の開催は見送り

- 住替えを検討している方、住宅資産活用に興味のある方を対象に住替え啓発・市のPR等を図る。

次年度以降、新たな枠組みを検討

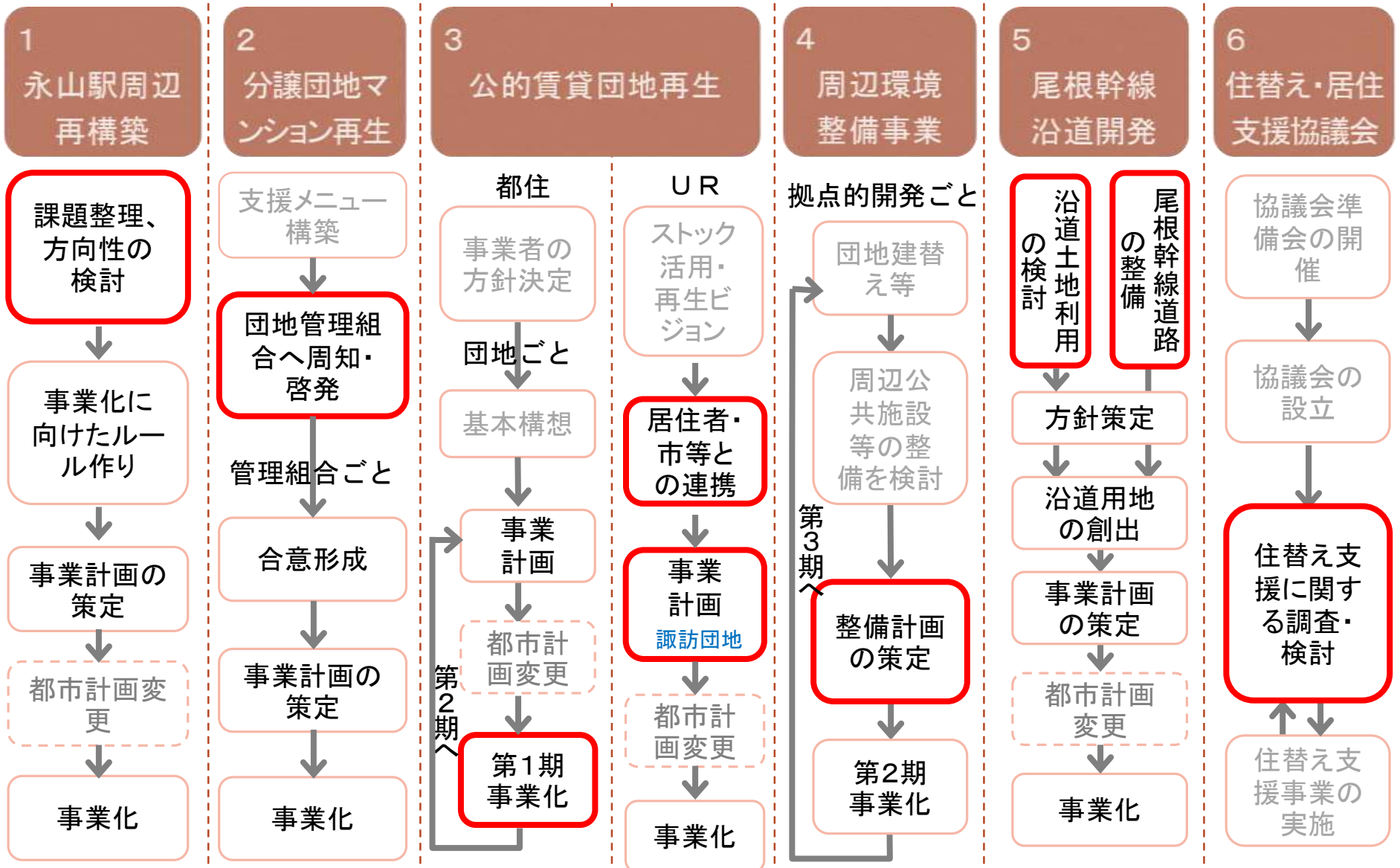
■多摩市居住支援相談窓口

関連する 取り組み

【多摩市三世代近居・同居促進助成】（多摩市内全域を対象）
➡親世帯と近居・同居をするため、市外から多摩市内に転入する子育て世帯の住宅取得費用等に対し助成を実施

1.リーディングプロジェクト

 : 現在の状況



2. ソフト事業について

目的	取組み・事業名	実施年度						連携
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	
定住促進	多摩ニュータウンの魅力実感ツアー							京王・UR
	多摩大学生寮プロジェクト							多摩大学・UR
	移動販売の拡充を通じた生活支援とコミュニティの醸成(京王)							京王・東京都 ※
魅力発信	多摩ニュータウンの魅力発信サイト							
	多摩ニュータウン魅力実感イベント ▶空き店舗を活用した コワーキングスペース ▶住環境見学ツアー	たまNEWプロジェクト					新たな取組みを 検討中	京王・UR
	多摩ニュータウンの魅力発信ポスター 駅掲出							
	ポストコロナでの郊外のライフスタイルを考えるオ ンラインワークショップ@多摩ニュータウン							主催:京王・UR 協力:多摩市、八王子市、稲城市
	多摩ニュータウン南側プロジェクト							首都大、京王、多摩信、JS、UR、ヤマト、 多摩市
	寄附(ふるさと納税)の返礼品を通じた 来街促進							サンリオ、日アニ、京王 ヤマト、ジオデザイン
	その他(多摩市若者会議、市制施行50 周年記念事業、NEWTOWN2019、多 摩市online文化祭等)							拡大中 2020.11.7多摩市online文化祭開催

3.その他の関係する取組み

● みんなでつくる多摩市ONLINE文化祭

- 令和3年に市制施行50周年を迎える多摩市では、新型コロナウイルスの影響を受け、地域の学校文化祭やライブ・演劇などあらゆる文化発表の機会が失われたことに対し、オンラインを通してさまざまな市民が発表する場を提供することを通して市制50周年に向けた機運醸成を目的に、令和2年11月7日(土曜日)に市民参加のオンラインイベント「みんなでつくる多摩市ONLINE文化祭」を開催
- プログラムは、音楽ライブ、演劇、ダンスやトークなど、さまざまな文化祭コンテンツを予定。同日開催の花火やイルミネーション点灯の様子の中継に加え、50以上の市民団体の参加のほか、プロのアーティストと多摩市民によるコラボパフォーマンスも複数配信
- YouTubeにて配信し、視聴数は2万超え



3.その他の関係する取組み

● 健幸まちづくりシンポジウムオンライン

～多摩市で叶う、新しい健幸！ワーク～



- 令和2年10月11日、多摩市で実現するウィズコロナ時代の健康で幸せな働き方について、働き方改革の専門家、多くのまちの魅力を知る住宅情報誌の編集長を招き、「今」と「これからの可能性」について、市民とともに考えるシンポジウムをオンラインで開催。
- 「選ばれる郊外、選ばれない郊外」をテーマにした講演では、「日常と非日常コンテンツ」、「住んでいる人が魅力」、「感染&災害視点で安心」といった今後選ばれるまちに重要なキーワード等が紹介された。



● シティセールスの推進

- 「選ばれるまち」の実現に向け、シティセールスを推進し、戦略的な広報活動※により魅力やポテンシャルを発信。多摩市全体のブランディングの検討も開始している。

※Instagram(魅力発信サイト「丘のまち」)や不動産系WEBサイトを活用したPRなど